

「2026年度春季研究発表大会」のお知らせ

更新履歴

12月25日：「2026年度春季研究発表大会」のお知らせを公開（v1）

第41回 国際P2M学会 研究発表大会 The 41th Congress of International P2M Association

国際P2M学会のミッションとビジョンの深耕

2026年度の国際P2M学会春季研究発表大会を、下記の要領にて開催いたします。つきましては、会員の皆様の研究発表を募集いたします。発表ご希望の会員は、以下の申し込み要領をご参照のうえ、期限までにお申し込みください。なお、本大会は千葉工業大学津田沼キャンパス会場において対面にて形式にて開催いたします（ハイブリッド開催ではありません）。

1. 開催日・形式

開催日 : 2026年4月19日（日）
開催校 : 千葉工業大学
会場 : 千葉工業大学 津田沼キャンパス（千葉県習志野市津田沼 2-17-1）
受付開始時刻・場所 : 9:00、7号館4階
最寄駅 :
JR 総武線／津田沼駅《南口》 徒歩 1分
京成線／京成津田沼駅下車《北口》 徒歩 10分
新京成線／新津田沼駅下車 徒歩 3分
アクセスマップ : <https://www.it-chiba.ac.jp/institute/access/tsudanuma/>
キャンパスマップ : <https://www.it-chiba.ac.jp/institute/campus/tsudanuma/>

2. 開催団体に関する情報

主催 : 一般社団法人 国際P2M学会（※）
共催 : 千葉工業大学
会長 : 国際P2M学会会長 亀山秀雄
企画委員長 : 小笠原 秀人（千葉工業大学 教授）
企画副委員長 : 新谷 幸弘（千葉工業大学 教授）
岡田 公治（東京都市大学 教授）
企画委員 : 山本 秀男、白井 久美子、石川 千尋、阿部 智恵
編集委員長 : 武富 為嗣
予稿集編集長 : 中野 健太郎
予稿集編集委員 : 加藤 智之、長島 匠

※ 一般社団法人 国際 P2M 学会：国際 P2M 学会事務局 〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター(平日：10 時～17 時) TEL: 03-6824-9371/FAX:03-5227-8631

3. 大会趣旨

前回の第 40 回研究発表大会は国際 P2M 学会創立 20 周年記念として開催しました。そこでは、国際 P2M 学会のミッションとビジョンをベースとして、これらからの活動について広く議論しました。第 41 回の本大会も、本学会が掲げたミッションとビジョンをベースに、さまざまな領域で活動しているみなさま方とプログラム＆プロジェクトマネジメントの活動をより効果的に実践するための起点となるための議論を展開したいと考えています。多くの方々の参加をお待ち申し上げております。

※ 国際 P2M 学会の Vision2030 は、本資料の最後に添付してありますので、ぜひご参照ください。

4. 大会スケジュール

(1) 午前：研究発表の部

09:20 - 12:00 研究発表／特別セッション

(2) 午後：総会、基調講演とラウンドテーブル

12:00 - 13:15 昼食休憩

13:15 - 13:45 総会（学会員のみ）

13:45 - 14:00 休憩

14:00 - 14:10 開会挨拶、開催校挨拶

14:10 - 15:10 基調講演

15:10 - 15:30 休憩／ラウンドテーブルの準備

15:30 - 17:00 ラウンドテーブル

17:00 - 17:10 閉会挨拶

※ 大会スケジュールは都合により変更する場合があります

※ 当日のプログラムは決定次第、学会ホームページに掲載します

5. 研究発表大会参加費関連

◆ 大会参加費：今大会の参加費支払いは 全て事前振込みのみにて受け付けます。

会員	：正会員、法人会員に所属の方	9,000 円
	：学生会員	3,000 円
非会員	：社会人、社会人学生	12,000 円
	：学生、大学院生	5,000 円

下記学会の銀行口座宛にお振込下さい。（振込最終締切：2026 年 4 月 10 日（金））

4 月 11 日（土）以降は、参加申込ならびに参加費振込の受付は致しません。

また、4 月 10 日（金）迄に未振込の場合は、投稿論文を予稿集に掲載致しません。

※会員価格での学会誌掲載料（50,000 円）を希望する方は、遅くとも 2026 年 3 月 27 日（金）までに入会手続きを済ませてください（非会員の場合の論文掲載料は 150,000 円）。新規入会には、上記参加費とは別に、正会員が 12,000 円（入会金 2,000 円、年会費 10,000 円。社会人学生を含みます）、学生会員が 6,000 円（入会金 1,000 円、年会費 5,000 円）、必要となります。

尚、入会費の振込み先は ホームページ及び入会申請フォームに記載の「ゆうちょ」口座です。大会参加費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

入会手続きの詳細は、学会ホームページから、こちらをご覧ください

→ <http://iap2m.org/accept>

◆ 午後の部（基調講演とラウンドテーブル）のみの参加費用
会員・非会員とも ： 3,000 円

◆ 情報交換会費用：4,500 円【当日払い：5,500 円】

◆ 大会参加費振込み先銀行口座：
三井住友銀行（銀行コード：0009）
飯田橋支店 （店番号：888）
普通預金 （口座番号：7098073）
口座名義 （一般社団法人 国際 P2M 学会）

※大会参加費の領収書は、入金後、領収書（PDF）をメールで送付いたします。宛先の指定がない場合は本人宛の領収書になりますので、ご注意下さい。

◆ 留意事項

※ 振込済みの参加費は、不参加の場合でも返金できません。

6. 参加申し込み方法

◆ 参加申込期限

論文投稿者：4 月 3 日（金）迄に申込み登録を済ませてください。

大会参加のみの方：参加費振込の締切 4 月 10 日（金）迄に申込登録を済ませてください。

◆ 研究発表大会参加申込みはこちらから（注．発表者も、申込み登録が必要です）

◆ 参加登録に関する参考情報

ブラウザが Internet Explorer の場合、バージョンが新しいと無応答になる場合があります。
次の操作を参考にして下さい。<http://www.iap2m.org/pdf/ie201309.pdf>

7. 発表者への要旨と予稿の投稿登録に関するご案内

◆ **要旨の投稿期限**及び方法：これに基づく研究発表プログラムは別に掲載します。

投稿期限：2026年3月2日（月）23時59分

投稿方法：要旨は、次の URL から、web 登録画面に従い入力して下さい。

http://www.iap2m.org/regist_smallcongress.html

査読選択：予稿論文の審査を希望される方は、査読希望「●有」を画面上で選択してください。

採択後の学会誌掲載料：50,000 円（会員）, 150,000 円（非会員）

投稿形式：スライド形式のみの予稿も歓迎します。但し、その場合、査読は選択できません。

◆ **発表予稿投稿期限：2026年3月23日（月）18時**

（厳守 ※締切後の投稿は一切受け付けられません。）

投稿方法：要旨投稿時に登録されたメールアドレス宛に、後日、編集委員から「予稿投稿方法」に関するメールが届きます。それに従い、MS-Word および PDF 形式の予稿を投稿してください。

◆ 受付メール確認のお願い

要旨及び予稿投稿締切後、編集委員より受付メールを登録アドレス宛に送信します。

なお「(at)iap2m.org ((at)を@に読みかえてください。）」のドメインから届くメールが、迷惑メールフォルダに入らないように設定してください。万が一、着信しなかった場合は、下記学会事務局宛にお問い合わせ下さい。

国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

◆ 査読を希望される方へ

査読論文：当学会では、予稿が査読論文として審査されます。ただし、発表された論文に限ります。

頁数：最大 20 ページ

論文形式：本学会 HP「学会論文関連情報」（下記 URL）にある規程等（「国際 P2M 学会誌投稿規程」、「学会論文投稿規程補足」ほか）を遵守してください。また「学会論文サンプル」も下記 URL に掲載されていますので、ご活用ください。

学会論文関連情報：<http://iap2m.org/ronbun-info/>

補 足：

- (1) 予稿集に掲載された論文は、辞退などにより発表されなかった場合も、同じ内容では再投稿はできません。
- (2) 予稿に P2M との関連性と関連参考文献を明記願います。当学会の過去の論文誌は、J-stage から閲覧できます。<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iap2mjour/-char/ja>
- (3) 論文執筆経験が浅い方は、「9. P2M セミナー動画の掲載」にある Youtube「IAP2M チャンネル」にある論文の書き方に関する動画を視聴するほか、学術論文作成経験者から論文作成の指導を受けることをお勧めします。またスライドではなく論文を予稿として投稿される方は、英文要旨（または英文本文）について、可能な限り英文としての品質向上に努めて下さい。

◆予稿提出期限の延長申請

発表時のコメントなどを参考に今大会で提出された予稿を改訂し、次期大会に査読用論文として提出できます。

(1)研究発表大会の発表者は、要旨を提出する際、査読希望の有無を申告する（今までと同じ）

(2)査読を希望する発表者は、今大会の予稿論文を期限までに提出する（今までと同じ）

(3)査読を希望する予稿提出者には、予稿提出後、編集委員または大会企画委員から、a) その予稿論文で査読を希望するのか、b)改めて提出する修正研究論文の査読を希望するのかをメールで確認しますので、返信時に a) か b) のどちらかを回答する。

(4)上記3.b)の修正研究論文（但し、論文タイトルと要旨の変更は予稿と同じでなければならない）は、次の大会の予稿提出期間中（次大会の要旨提出締切日～予稿提出締切日の間）に提出されなければならない。

(5)査読部会と編集委員長は、次期大会の論文審査時に、上記3.b)の論文を含めて審査する

◆発表方法：発表者に対して別途メールにて連絡いたします。会場での発表、遠隔地よりオンラインでの発表より選択可能です。議論を活発にするため会場での対面での発表を推奨しますが、オンラインによる発表であっても査読に不利になるなどの影響は全くありません。

◆発表時間（予定）：発表 20 分以内、質疑応答 5 分（全体で 25 分以内）

◆発表奨励賞：受賞者を選出し 5 月中旬頃に学会ホームページ上に掲載し表彰します。

8. P2M セミナー動画の掲載

国際 P2M 学会では、P2M の基礎知識、事例による P2M の理解、適用事例や、論文の書き方について、本学会ベテラン講師陣が分かりやすく解説した次のセミナー動画（YouTube）を作成しています。P2M に関する知識を深めたい方、論文執筆経験の浅い方など、広くご視聴いただければ幸いです。

詳しくは、次のリンクをご参照ください。

<http://iap2m.org/youtube/>

9. お問い合わせ先：国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

アクセス



JR 総武線

津田沼駅 駅前（南口）

徒歩 1 分 <東京駅から

快速で 28 分>

京成線

京成津田沼駅下車

徒歩 10 分 <京成上野

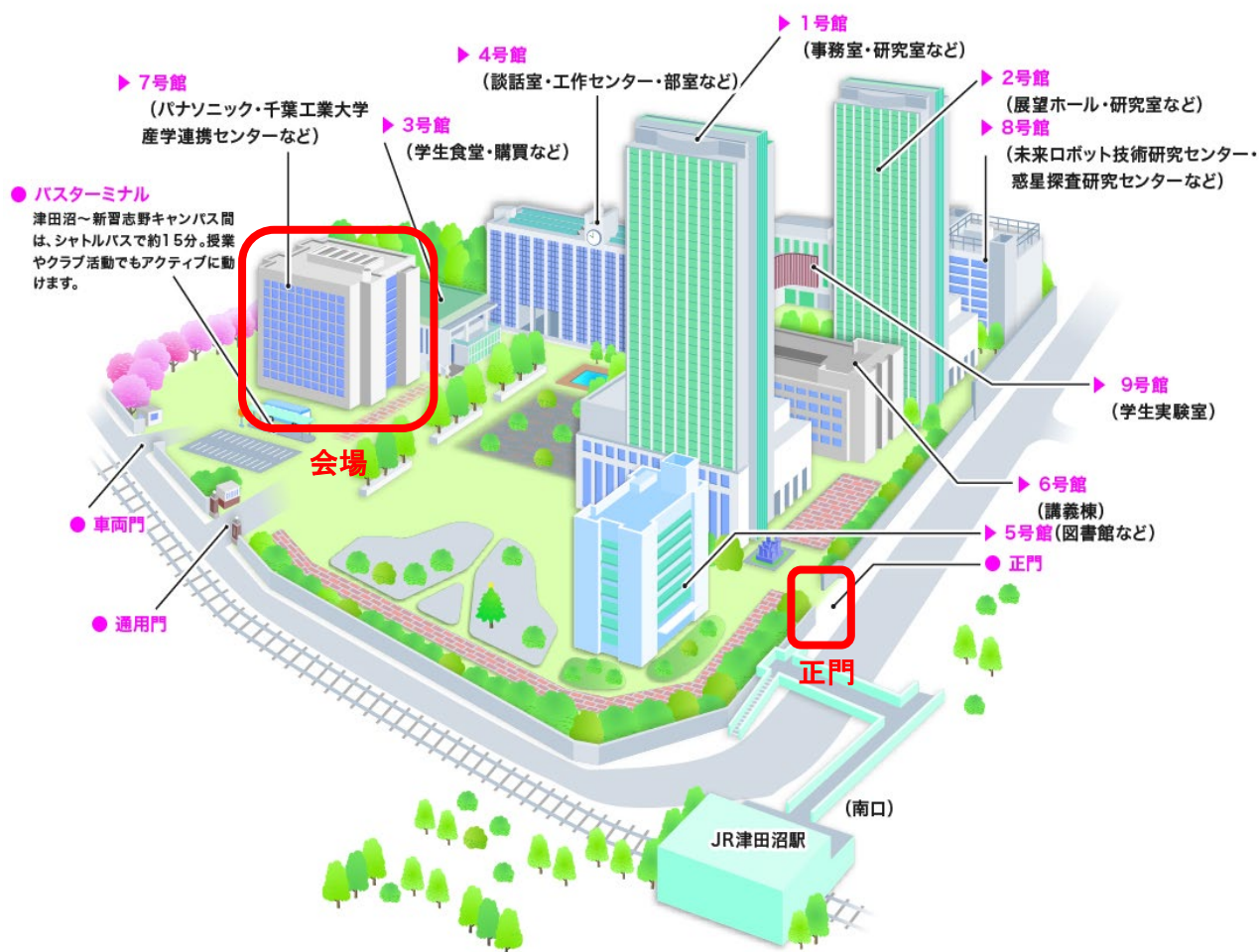
駅から快速で 38 分>

新京成線

新津田沼駅下車

徒歩 3 分

会場案内



国際P2M学会の Vision2030

国際P2M学会の5のミッション

本学会は、
オーナーの視点に立って、経営システムと技術システムを統合するプログラムマネジメントの知識体系の深化と実践研究を推進する事により共存共栄の持続可能な社会の構築に貢献する。

本学会は、
組織の全体使命のもとで複数のプロジェクトを有機的にマネジメントし、創造的統合マネジメントスキル手法を活用して、構想（スキーム）・構築（システム）・運営（サービス）が連結した（3Sモデル）構成からなるプログラムマネジメントの知識体系を社会に提供する。

本学会は、
マネジメント分野での活動を行っている社会人に対して、研究発表、論文発表の場を提供し、博士号取得可能な教育機関を斡旋して、社会人の博士号取得を支援する環境を構築する。

本学会は、
実務と理論を架橋するために、現実の問題を理工学的な視点と人文社会科学的な視点の両面から捉え、イノベーションをもたらす新たな知識体系を構築する。

本学会は、
不確実な環境の社会で必要とされるオーナーの視点を持つ人材を育成し、現在の活動だけでなく、将来の活動も含めて、プログラムマネジメントが社会における様々な場面で有効性を発揮する知識体系を構築する。

国際P2M学会の10のビジョン

1. 日本が世界に遅れを取っているビジネス効率性の低い要因である経営プラクティス分野の強化のためにプログラムマネジメントの知識体系が有効であることを具体的に社会に発信する。
2. 2025年創設20周年に東京でASCON-IEEChE2025開催に向けた準備を進め、プログラムマネジメントセッションで海外に日本版のプログラムマネジメントの有効性を示す。
3. 環境や省エネルギー分野での日本の国際的展開を支援するために国際協力事業におけるプログラムマネジメント知識体系の確立を目指す。
4. 本学会が提唱するプログラムマネジメントに最新のDXの成果を取り込んだ新たな知識体系の構築を目指す。
5. 政府のリスキリング支援のなかで、マネジメント人材育成支援を学会の方針として、各種教材作成、オンライン講義配信、講習会企画、社会人博士人材育成、若手人材育成のための活動を行う。
6. 学会としてリスキリング支援の公的資金に応募し、学会財政基盤の確保と専従事務職員確保を目指す。
7. 社会人の会員数と協賛企業数の増加に繋がる魅力有る企画を目指す。
8. YouTubeを活用して分かりやすいプログラムマネジメント動画の無料配信や最近のプログラムマネジメントのトピックスの配信を行い、社会人の学会参加を促す。
9. P2Mマガジンの主要記事の英文による配信を目指す。
10. 学会の運営体制として、運営委員会を運転席として、大会実行委員会、論文査読部会、P2Mマガジン編集委員会、セミナー企画委員会を4輪とした車として上記のビジョン達成に向けて前進する。

ビジョン概要:

日本の精神文化を礎とし、顧客価値を追求するP2Mを、国内外において社会変革を推進するための共通言語および実践フレームワークとして確立し、多様なステークホルダーとの共創を通じて、持続可能な社会の実現に貢献する。

重点目標:

1. **グローバルスタンダードとしてのP2Mの確立:**
 - **目標:** 2030年までに、P2Mが国際的なプロジェクトマネジメントの分野において認知され、活用されるための基盤を確立する。
 - **具体的な取り組み:**
 - 国際的なプロジェクトマネジメント関連団体との連携強化（PMI、IPMAなど）。
 - 英語をはじめとする多言語でのP2M関連情報（書籍、論文、研修プログラムなど）の拡充。
 - 海外の大学や研究機関との共同研究・教育プログラムの推進。
 - 国際的なP2M認証制度の創設と普及。
 - 国際会議やセミナーでのP2Mの積極的な発信。
2. **社会変革マネジメントへのP2Mの浸透:**
 - **目標:** 2030年までに、SDGs達成、カーボンニュートラル実現、地域活性化、防災・減災などの社会課題解決に向けたプロジェクトやプログラムにおいて、P2Mが広く活用される状態を目指す。
 - **具体的な取り組み:**
 - 社会変革をテーマとしたP2M事例の研究・収集・発信。
 - 政府、自治体、NPOなどへのP2M導入支援プログラムの開発と提供。
 - 社会変革に特化したP2Mのガイドラインやツールキットの開発。
 - 社会課題解決に取り組む人材育成のためのP2M研修プログラムの提供。
 - 社会変革プロジェクトの成果を評価するためのP2Mベースの指標開発。
3. **バックキャスト思考による未来志向の推進:**
 - **目標:** 2030年までに、P2Mのバックキャスト手法が、企業、政府、自治体などにおける中長期戦略策定や政策立案のスタンダードなアプローチとして普及する。
 - **具体的な取り組み:**
 - バックキャストを活用したP2M事例の創出と普及。
 - バックキャスト思考を習得するための研修プログラムの開発。
 - 未来予測やシナリオプランニングとP2Mの統合研究。
 - P2Mを活用した2040年以降の社会ビジョン策定プロジェクトの推進。
 - バックキャストに基づいた目標設定と進捗管理のためのツール開発。
4. **PMAJとの連携のもと、多様なステークホルダー連携を促進するP2Mプラットフォームの構築:**
 - **目標:** 2030年までに、P2Mが多様な組織や個人が連携し、共通の目標達成に向けて協働するための効果的なプラットフォームとして機能する。
 - **具体的な取り組み:**
 - P2Mをベースとしたコラボレーションツールや情報共有基盤の開発。
 - 異なる分野の専門家やステークホルダーが集うP2Mコミュニティの形成。
 - P2Mを活用した官民連携プロジェクトや地域連携プロジェクトの推進。
 - 多様な価値観を持つ人々との協調を促進するためのP2M研修プログラムの提供。
 - ステークホルダー間の合意形成を支援するP2M手法の研究と普及。
5. **変化に柔軟に対応できるP2M人材の育成:**
 - **目標:** 2030年までに、不確実な環境下でもP2Mを活用して柔軟かつ効果的にプロジェクトやプログラムを推進できる人材を育成するための教育体系を確立する。
 - **具体的な取り組み:**
 - 状況適応型ライフサイクルに対応したP2M研修プログラムの開発。
 - OJTや実践的な演習を取り入れたP2M教育の強化。
 - 変化への対応力を評価するP2M認証制度の導入。
 - P2Mを活用したアジャイルなプロジェクト運営手法の研究と普及。
 - 継続的な学習と能力開発を支援するP2Mコミュニティの運営。